

# 南幌×暮らし×住まい クオリティ・ファースト のデザイン *Quality First*

## 建築家×地域工務店による、 クオリティ・ファーストの暮らし

暮らしのクオリティを大切に“クオリティ・ファースト”を基本コンセプトとする「みどり野きた住まいるヴィレッジ」。これを具現化するために前期より提案しているのは、敷地は隣地も合わせて購入できるよう1区画おきに販売して2区画分の広い視界と秩序ある街並みを提供すること。住人が隣地を菜園や庭、共用の場にできること。個々の住宅は、屋外・半屋外空間を室内とつなぎ、住宅の面積以上の広がりを感じられる暮らしを楽しむこと。さらに、「みどり野きた住まいるヴィレッジ」に関わる人たちみんなで“まち”を育てていくこと。そして、これらを確認可能なものとするため、高い住宅性能を実現する技術力と専門知識を持った地域工務店と建築家がともに創ることです。

## 共通のデザインルールを設定

注文住宅方式(モデルハウスを含む)を可能とする今期は、本事業の趣旨に掲げる「道内の住宅事業者が設計・建設した地域の気候風土などへの配慮や豊かな暮らしを提案する良質な住宅を提示することで、北海道が進めているきた住まいる制度や北方型住宅の普及啓発を図るとともに、南幌町への定住の促進を図る」という目的をかなえ、個々の住まい手の要求に応じながら「みどり野きた住まいるヴィレッジ」らしい魅力ある暮らしのできる住まいを設計・施工することが求められます。

そこで、前期からの基本コンセプトであるクオリティ・ファーストを引き継ぎながら、ヴィレッジ全体のデザインに関する共通ルールとして、参加事業者が基準とすることのできるデザインルールを設定します。

北海道の新しい住まいの形  
— 北方型住宅で建設します

クオリティ・ファーストを支える

# デザインルール

*Design Rule*

ライフスタイル  
小さく豊かに暮らす

住まいの価値を、暮らしのクオリティに求めるというライフスタイル。見た目には小さくても、心理的な奥行きは深く大きく大きいという、そこに価値を見いだせることが、クオリティ・ファーストを理念とする「みどり野きた住まいるヴィレッジ」の前提です。

そのため、家だけではなく隣地を活用した共用スペースにも、暮らしのクオリティを高めるしかけをつくり、コミュニティや地域社会とのつながりによって、個々人のライフスタイルを大きく楽しく発展させます。



「みどり野きた住まいるヴィレッジ」では、個々の住宅をはじめ、ヴィレッジ全体にわたるデザインにおいて、前期にて掲げた3つのテーマ「ライフスタイル 小さく豊かに暮らす」「まちづくり この”まち”で暮らす」「住宅のイメージ ていねいに暮らす」を考え方のベースとします。



まちづくり  
この”まち”で暮らす

「みどり野きた住まいるヴィレッジ」の事業に参加するということは、建て主(住人)、住宅ビルダー、建築家であるかに関係なく、まちをつくり、育てることに関わることです。

きれいな街並みやみどりの風景をつくり、共有の意識を大事にする。まちづくりにおいてもクオリティ・ファーストという「みどり野きた住まいるヴィレッジ」の理念を理解・共有し、まちを育て、豊かな暮らしを育んでいくのが、これからのスタイルです。

そして、デザインに関する共通ルールとして、デザインルール(必須)を設定します。さらに、完成済みの6棟に共通してみられる特徴を分析して良い結果が得られた要素を抽出・整理し、これからの設計・施工の際に活用できるデザインツール(任意)を提示します。



住宅のイメージ  
長く、ていねいに暮らす

住宅のイメージは、ハイスペックな住宅性能をもち、暮らしへの経済効果も見込めるエネルギー効率の高い、必要十分な広さの家。

その上で、ドアを付ける・外すなどの簡単なアレンジで暮らしの変化に呼应し、間取り変更や増築がしやすいなど、長く住み続けられる家に必要な、将来の変化に柔軟に対応できる備えを提案。

さらに、地域材を生かした内・外装のデザインで、年月を経るほどに味わいが増す自然素材の魅力を楽しむ暮らしを提案します。

## 必須項目

まちづくり  
この”まち”で暮らす

ライフスタイル  
小さく豊かに暮らす

住宅のイメージ  
長く、ていねいに暮らす

### 千鳥配置

住宅は1区画おきに配置することを基本として、ゆったりとした秩序ある街並みを保つ。敷地境界からの壁面後退距離1mを確保する



### 隣地の活用

千鳥配置によってできる隣地(1区画)を住人の菜園や庭、共用の場に活用するなど、豊かな暮らしを提案



※塀や別棟(屋外物置やガレージなど)を設置する場合、オーナーは住宅の設計者に相談すること

### 住宅性能

以下の性能を満たすことを基本とする(あるいは、さらに上を目指す)

断熱性能等級 等級4(UA値0.34以下)	一次エネルギー消費量等級 BEI 0.8以下	耐震等級 等級2
高齢者等配慮対策等級 等級3(ただし、玄関の出入口の段差に係る規定は除く)	劣化対策等級 等級3	気密性能 相当隙間面積(C値) 1.0cm <sup>2</sup> /m以下(実測値)
維持管理対策等級 等級3		

※気密性能以外は、住宅性能評価制度における評価方法基準(平成13年度国土交通省告示第1347号)に基づく

デザインツール — 任意項目 (推奨)

まちづくり  
この「まち」で暮らす

ライフスタイル  
小さく豊かに暮らす

住宅のイメージ  
長く、ていねいに暮らす

土間空間

外部(「まち」と接続する玄関に、さまざまな作業や活動に活用できる広めの土間空間を設ける



内～外の空間のつながり・広がり

屋内～半屋外～屋外の一体的なつながりや、実際の床面積以上の広がりを感じる空間構成・仕掛け(大開口を設ける、テラスやデッキと室内の床を同レベルにするなど)



内装や構造材に地域材

地域資源から生産された材料(木材や石材、レンガ、ブロックなどを構造材や床・壁・天井などの内装仕上げに利用



暖房設備

メイン暖房として床下換気暖房方式(パッシブ換気含む)などへの取り組み、薪ストーブの併用など



外装に地域材

地域資源から生産された材料(木材や石材、レンガなどを外壁などの仕上げに利用



開放感のある断面構成

間仕切り壁や建具の少ない、上下階にわたって開放的な一室空間の構成(高い断熱気密性による室内温度差小)



動線

広がりを感じられる回遊動線、キッチンを中心としたコンパクトな動線、内外をつなぐ通り抜け動線などに配慮



可変の備え

将来において、簡単なアレンジ(間仕切り壁・ドアの追加、稼働間仕切りなど)や増改築を可能とする設計



日射遮蔽・日射調整

室内温度上昇(特に夏場)をもたらす日射を遮る庇や深い軒を設ける(日射調整可能な外付けブラインドなども有効)



**無落雪屋根**

厳しい冬を快適に過ごせるよう、雪かきの軽減や安全に配慮(屋根材にシングル材やスノーストッパーなどを採用)



**外構計画(街並み)**

プライバシーを損なわない程度に通りに対して適度に開き、建物配置と樹木との組み合わせにより、各建物から見える景観や庭・菜園への日射、街並みの統一感に配慮

\*隣地の使い方等の住まい方については、別途、住民の方々でまちなみルールをつくり守っていくこととしています。



まちづくり  
この「まち」で暮らす

**テラス・デッキ(半屋外空間)**

外部が気持ちいい時期に活用できるテラスやデッキを室内から連続するよう設ける(屋根や深い軒・庇と組み合わせることで半屋外空間としての活用の幅が広がる)



**雁木・カーポート**

住宅と統一感のあるデザインで、雨や雪の日も安心して住宅へアプローチできる動線を確保(敷地内の雪かき軽減)



ライフスタイル  
小さく豊かに暮らす

**外部物置**

ヴィレッジ内の景観を良好に保つため、敷地内の物置や薪置き場も住宅と調和のとれたデザインにする



住宅のイメージ  
長く、ていねいに暮らす

**豊かな暮らしをつくる北の住まい～北方型住宅**

北海道では、昭和63年から産学官が連携して、本道にふさわしい豊かな住まいを目指して「北方型住宅」の開発普及に取り組んでいます。北方型住宅は「長寿命」「安心健康」「環境との共生」「地域らしさ」の4つの基本性能に基づき、省エネルギー、耐久性、高齢化への対応、地域資源といった基準等を満たした住宅を北海道が登録を行うものです。

今後は災害対策や低炭素化といった新たな課題に対応するため、2020年に新しい基準「北方型住宅2020」を設ける予定であり、「北方型住宅2020」として登録し、長期優良住宅の認定を取得すると、税制優遇措置などの経済メリットを受けることができます。この「みどり野きた住まいるヴィレッジ」は、高い住宅性能や景観への配慮など北方型住宅の理念に沿って、計画・建設されています。